



餌をとるトキ。ビオトープや冬期湛水（ふゆみずたんぼ）により、生きものが暮らしやすい環境をつくっています。

佐渡市での取り組みを発表しました

① サイドイベント（10月19日）

佐渡市が取り組んでいる生きものを育む農法や、環境と経済を両立させる鳥づくりなどについて、高野市長が発表しました。また、笹淵自然保護官がトキの野生復帰の取り組みについて、新潟大学の関島准教授がトキの野生定着に向けた餌場とシステムについてをそれぞれ発表しました。国連機関の主催する国際会議での講演は「佐渡市初」です。

② エクスカーション（10月23日・24日）

COP10に参加している世界各国の政府関係者や研究者、国連の専門機関の職員など15名を佐渡に招き、トキ野生復帰ステーションや、生きものを育む農法の田んぼ、佐渡金銀山などを視察。佐渡の環境活動について意見交換を行いました。

③ 国際自治体会議（10月24日～26日）

COP10併催の国際会議で、国内か



サイドイベントで発表した笹淵自然保護官(右)、新潟大学・関島准教授(左)、高野市長



トキ資料展示館を見学するエクスカーション参加者



鳥連合のブース。トキのペーパークラフトは大人気。

らは131団体、海外からは59自治体が参加しました。佐渡市は、トキの保護と野生復帰までの流れやトキ認証米による経済効果・波及効果について、高野市長が発言しました。

④ 生物多様性交流フェアに出展（10月11日～29日）

「鳥連合4市く生きものの人・共生の里を考える」と題し、佐渡市（トキ）、兵庫豊岡市（コウノトリ）、山口県周南市（ナベヅル）、鹿児島県出水市（ツル）の取り組みを紹介するブースを共同出展しました。ポスター・カタログ展示のほか、折り紙やペーパークラフトを通し、子どもたちや家族連れに、自然や生態系の大切さをアピールしました。

トキのペーパークラフトを扱うブースには、期間を通じて6500人もの方々に来場していただき、一番人気でした。

佐渡ではトキの野生絶滅という悲しいできごとを経験しました。一度失われた種は、取り戻せません。身近にある自然について、もう一度見直してみましよう。

- たとえば・・・
- ・ 自然を汚さないようにしよう
  - ・ 地域の自然保護活動に参加しよう
  - ・ 地産地消を心がけよう
  - ・ 省エネや省資源に努めよう
  - ・ ペットは最後まで責任を持って飼おう

生物多様性を守り、次の世代に引き継ぐために、私たちが取り組めることはたくさんあります。

私たちにできることは？

